

【優秀賞】

【安全な水に思う】

常滑市立南陵中学校 三年 高澤 優里

あなたは、水道水をそのまま飲むことができる国が何か国あるか知っているだろうか。正解は、世界百九十六か国の中で、日本を含むたった十五か国だけである。残りの百八十一か国の中には、飲むどころか水道自体がない国もあるそうだ。日本では水道水を当たり前料理などで使っているが、私たちはもつとありがたみを感じて大切に使用していかねばいけないと思う。

水道から出る水をそのまま飲むためには、水の中の不純物や細菌を消す浄水処理をしなければならず、高度な技術とコストが必要になる。また、日本のように小さな国ならば水道の設置や整備を行いやすいが、大きな国になればなるほど時間もコストもかかるため、すべての国で水道を設置するのは難しいようだ。では、水道自体がない発展途上国では、どうやって水を確保しているのだろうか。

ユニセフによると、安全な水が手に入らない人は世界で約六億六千三百万人。その多くがサハラ以南のアフリカ諸国だそうだ。それらの国では水汲みは子供の仕事になっている。サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、三百三十万人以上の子供たちが毎日重い水を持ちながら長距離を歩き、学校に行く時間も体力もなくなっている。また、炎天下の砂漠を毎日八時間以上歩いても、一人当たり五リットル未満の茶色い汚水しか手に入らない。完全に殺菌し、安全な水にするためには、浄水器で浄水し、最低でも五分以上沸騰し続けなくてはならない。しかし、浄水器を買うことができない家庭もとても多く、毎日八百人の子供が汚れた水などで命を落としてしまっているそうだ。日本のように当たり前水道があり、当たり前前に水が出て、それをそのまま飲むことができる環境というのはとても恵まれているのだと、改めて感じた。

もし、家の近くに水道や井戸ができれば、水汲みの時間分自由を過ごせる。また、安全な水を使い、体を清潔に保つことができる。病気にも

かかりにくくなるため、幼い命が失われることも大幅に減るだろう。そして、普通に学校に通ったりと、子供らしい生活を送ることができるようになるだろう。

そんな人々の生活をサポートしてくれるのがユニセフだ。ユニセフは、清潔な水を届けるために、井戸などの給水設備を整えたり、手洗いなどの衛生習慣を広めるなど、世界の人々が安心して暮らせるようになるための支援活動を行っている。また、設置した井戸を長く大切に使用するための修理方法や部品交換などの技術を教えたりもしている。

「力になりたいけど、自分にできることは何もない。」と思う人もいるだろう。しかし、決してそんなことはない。私たちにもできることはある。私はあるホームページを見つけた。それは、「Goodto」のアンケートだ。たった三問のアンケートに答えるだけで、日本ユニセフ協会へ十円の寄付ができる。私が答えた時には一万七千四百七十三人が回答し、十七万四千七百三十円の支援金になっていた。ユニセフに届けられた支援金は、様々な物資となって外国へ届けられる。約十七万五千円は、洗剤、石鹸、貯水器などが入った家庭用衛生キットに換算すると二百四十人分となる。実は、私たちも簡単に、ちよつとした支援をすることができるのだ。一人一人ができる支援は小さなものかもしれない。しかし、多くの人がそれを行えば、少しずつ、大きな力に変わっていくのである。

私は、水について調べ、生活基盤が充実したこの環境のありがたさを強く実感し、これが当たり前ではないことを絶対に忘れてはいけないと思った。そしてこれから、世界中の人々がきれいな水を安心して飲むことができるようになるよう、私たち一人一人が、自分にできる小さな支援を積み重ねていく必要があるのだと思う。